

令和7年度 鯖江高等学校(全日制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題(令和7年度)	改善策・向上策(令和8年度)
1 教育課程 学習支援	<p>具体的取組</p> <p>a 授業、家庭学習の充実に努め、一人ひとりの学力を高める。 目標:授業の理解度、分かりやすい授業の指数85%以上</p> <p>b 学習手帳「みのり」を活用し、家庭学習の習慣を定着させる。 目標:家庭学習の定着に関する指数70%以上</p> <p>c ICTを活用する授業改善に努め、授業力を高める。 目標:ICT活用に関する目標指数70%以上</p>	<p>•授業理解と家庭学習の定着について 生徒の授業内容の理解度は95%で、過去6年間で最も高い。しかし、保護者の認識では15%以上低く、目標に届いていない。</p> <p>•家庭学習の定着について 平日に1時間以上の家庭学習を行っているとは回答しているのは、1年生32%、2年生31%、3年生62%で、1年生と3年生が昨年度を上回った。保護者の回答では、3年生はほぼ生徒と一致しているが、1年生と2年生は上回っており、特に2年生では20%以上のずれがある。</p> <p>•授業改善について プロジェクターを使い、資料集のグラフの解説、実験動画、題材のイメージを膨らませるための写真や動画、生徒のノート、グループ活動の結果発表、公式や文法を常に表示するなど、各教科・教員による積極的な利用が年々伸びてきており、85%に迫る高い数値である。</p>	<p>•授業理解と家庭学習の定着について ほとんどの生徒は授業が理解できていると回答しているが、授業が理解できないと答えた生徒に対しては、放課後を利用した個別指導や学習会を行い、理解度をアップさせたい。</p> <p>•家庭学習の定着について 家庭学習の定着は、まだまだ目標の数字に届いていない。個人面談や家庭との連絡を密にするなどして、家庭での過ごし方の改善に努めたい。また、課題の内容を吟味して取り組みやすくなるよう工夫したい。</p> <p>•授業改善について ICT機器の利用は日常的になったようである。来年度についても、授業力向上を目指し、毎学期に授業公開週間(2週間)を実施する。また、各教科の中で授業研究を進める。ICTについて、授業公開週間等を通じて、他の教科や教員のICT活用方法を学び、方法の幅を広げ授業改善に役立てていく。また、ICT利用における教材の共有化を今後も継続して行っていく。</p>
2 生徒支援	<p>具体的取組</p> <p>a 正しい服装容儀を身につけさせるため、定期的に容儀検査、登下校指導を実施し、個別指導を徹底する。 目標:正しい服装容儀に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>b 保護者との連携(保護者懇談、家庭訪問)を通して、遅刻者数を減らす。 目標:遅刻に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>c 生徒間の支え合いを通じて、いじめ・問題行動の防止に取り組む。 目標:啓発、指導に関する目標指数90%以上 目標:思いやり・助け合いに関する目標指数80%以上</p>	<p>生徒支援部の取り組みの重点目標として、例年同様に「正しい服装容儀を身につける」とした。風紀検査を今年度も年間6回に実施とした。保護者に対する集計結果では、「服装容儀を守っている(A+B)」が、97.5%(昨年度97.5%)と高い評価で、目標指数の95%以上を達成した。また、生徒に対する集計結果では、「風紀検査の再検査で不合格になった回数が年間1回以内(A+B)」は97.4%(昨年度96.3%)と増えており、目標指数95%以上を達成した。</p> <p>集計結果では、生徒は「不注意による遅刻の回数が年間 A 0回が84.8%、B 1回～3回が12.1%」と、3回以下(A+B)が96.9%(昨年度96.2%)で、目標指数の95%を上回った。保護者は「登校時間を守っている(A+B)」が、94.6%(昨年度94.1%)と目標指数の95%を今年度も下回ったが、あと一步のところまで改善することができた。</p> <p>「思いやりや助け合いの心を持って人に接しているか」の質問に対して、「できている(A+B)」は、生徒が98.9%(=62.7%+36.2%)、保護者が95.3%(=32.9%+62.4%)と、目標指数の90.0%は上回っているが、「大変よくできている(A)」の回答は、60%台であることは、注意しておきたい。</p> <p>「みのり」を通して生徒からの声を聞いたり、学校生活振り返りの実施結果により、いじめがあった場合は、教育相談担当者、学年主任、担任等と生徒支援部が、連携を取って対応した。</p>	<p>風紀検査を一昨年度から年間6回に減らしたが、評価は、よい傾向が継続している。教員に対する集計結果では「服装・頭髪が気になる生徒に対して、その都度積極的に指導した、まあまあ指導した(A+B)」という回答が、81.1%(昨年度89.4%)と、今年度も90.0%を下回った。今年度は、風紀委員会による呼びかけを実施し、生徒自身の意識を高めるきっかけになっていると考えられる。風紀検査不合格回数が多い一部生徒に対して、生徒支援部・担任・保護者との密な連携を図り指導することで、正しい服装容儀での学校生活を徹底させる。</p> <p>遅刻者の延べ人数を減らすために、教職員の協力による登校指導(朝当番)を継続し、いろいろな先生方から生徒に対して声かけを積極的に繰り返す。また、生徒会執行部の生徒と協力し、予鈴前登校の活動(あいさつ運動)も継続する。あわせて、保護者との連携(保護者連絡・懇談会等)をとおして、遅刻者を減らす。</p> <p>教員に対する集計結果において「生徒に思いやりや助け合いの心を持って人に接するなどの指導や積極的な生徒の声かけを行った(A+B)」は、98.1%(昨年度95.7%)だった。</p> <p>いじめ・不登校・問題行動について、今後も発生した際にはマニュアルに従い、関係する教員間の連携、保護者との連携を密にとって迅速に対応し、問題点を追及して防止できるよう取り組んでいく。</p>
3 進路支援	<p>具体的取組</p> <p>a 進路学習などを通して、生徒の実態に即した進路情報を提供し、適性にあった進路目標の早期設定に努める。 目標:①進路情報の満足度に関する目標指数90%以上 ②進路目標の設定など進路意識に関する目標指数90%以上</p>	<p>アンケートの結果、「必要な進路情報を入手できた」との回答がA+Bで生徒が92.9%、保護者が95.3%で、いずれも目標を達成することができた。「進路学習や授業、SHなどで生徒に進路情報を提供した」との教員回答も90.6%で、目標の90%を上回った。各クラス担任をはじめとする先生方が、生徒や保護者に対してしっかりと進路情報を伝達してくださった結果だと考えられる。今後も進路情報誌の配付や外部講師を招いた講演、オンラインによる進路ガイダンスや保護者対象分野別説明会などを継続して実施し、さらなる効果につなげていきたい。</p> <p>「進路目標の設定」に関する調査はA+Bで生徒が92.5%、保護者が92.3%で、こちらも目標を達成した。生徒については、学年ごとに意識差が現れており、1年生88.6%(昨年85.7%)、2年生90.4%(昨年88.4%)、3年生98.3%(昨年97.1%)となった。教員のアンケート結果において、13.2%が「進路に関する指導をあまり行っていない」と回答し、90%の目標に到達できなかったことは残念であるが、全体的に見れば進路支援部・担任の先生方を中心に、ロングホームや学年集会などを通して、進路意識の向上を目指した結果の現れだと推察できる。</p>	<p>令和7年度は全学年が学科再編されて4年となる。例年、生徒の進路情報の提供に対する評価は、1・2年生が3年生と比べてやや低い傾向にある。今年度の結果も例外ではなく、今後、より複雑化していくであろう進路情報を、より具体的でより分かりやすく適切なタイミングで、多様な進路希望を持った生徒たちに提供していくことが必要であろう。</p> <p>また、学年会や担任会との連携を密にし、総合的な探究の時間やスタディーサポートの結果も利用し、進学・就職の意義をより深く理解させ、生徒の進路意識向上を図る必要がある。進学希望者に対しては授業、定期考査、課外や模擬試験の重要性を理解させ、日々の家庭学習の定着を図ることがまず求められる。就職希望者に対しては学校を欠席しない、提出物の期限を守る等、学校生活の中で当たり前に求められることが当たり前にできる態度を醸成していきたい。その支援を行うに当たり、ICTの上手な活用法についても広く情報を収集し、生徒の進路支援に活かしていきたい。</p>

<p>3 進路支援</p>	<p>b 就職・進学試験に向けて全校体制で実施している面接指導・作文指導を充実させる。 目標:面接・作文指導に関する目標指数が95%以上</p>	<p>面接・作文指導が「大いに役立っている」「概ね役立っている(行っている)」と回答した合計は生徒が97.3%(昨年98.3%)、保護者が96.4%(昨年92.2%)と、目標である95%を上回る評価があった。その一方で教員アンケートにおいて「あまり指導しなかった」「ほとんど指導しなかった」という回答も一定数みられ、指導が割り当てられなかったのか、自らが指導を行わなかったのか、検証が必要な部分もみられる。 面接・作文指導は、例年同様進学希望者には担任や学年会による面接・小論文の指導を高校総体後の3年6月から実施し、9月からは全教員が数名の生徒を担当し、個別の面接・小論文指導を行っている。特に、ベテラン教員と若手教員のペアや異なる教科でグループを作って行う模擬面接は大きな成果を上げていると考えている。 就職希望者には2学年の3学期から面談指導を始め、3年になってからは就職コーディネーターにも協力してもらい、求人票の見方や履歴書の書き方、面接指導などを行った。さらに夏休みには鯖江市ロータリークラブの協力をいただき、就職模擬面接を実施している。また、警察、消防、自衛隊を希望する生徒に対する校内説明会は昨年に続き、3年生だけでなく2年生も対象とした。</p>	<p>生徒数の増加と進路希望の多様化に伴い、本校はさらに多様な進路に応じた個別的進路支援が必要になると思われる。進学については共通テスト受験をはじめ、学校推薦型選抜や総合型選抜で国公立大学や私立大学、短大・専門学校を受験する生徒が9割近くに上る。毎年毎年多様化する入試方法に対しての情報収集は重要である。進路支援部から先生方・生徒・保護者への情報提供の充実を図りたい。就職希望の生徒も今後増加が予想される。夏休みに実施する企業見学や公務員試験の奨励、また、警察・消防・自衛隊の校内説明会を全学年を対象にするなど、生徒への早めの意識付けが必要であろう。 生徒や保護者から高い評価をいただいている面接・作文指導は、来年度も改善できるところは改善しながら引き続き行っていきたい。また、可能な限り大学実施のオープンキャンパスや医療体験・ボランティア活動への積極的参加を促し、志望動機や小論文・面接での内容の充実につなげたい。併せて上段でも述べているが、ICTを上手く活用して教員の指導負担軽減にもつなげていきたい。</p>
<p>4 保健管理 教育相談</p>	<p>具体的取組 a 健康管理について生徒に啓発を行うとともに、その指導を充実させる。 目標:日常の健康管理についての啓発、指導に関する目標指数90%以上 b 安全・美化に対する意識を高める指導を充実させる。 目標:安全で快適に生活することについての目標指数95%以上 c 悩みなどの相談について適切に対応する。 目標:悩みなどの相談についての目標指数90%以上</p>	<p>教職員・生徒・保護者を全体で見ると、ほとんどの項目で昨年度より評価が上がっているか、例年並みの評価を得ている。 ・健康管理の指導に関しては、コロナ5類への引き下げ以降、引き続き、健康管理に対する意識が生徒・教職員・保護者ともに高く安定していると考えられる。 ・安全・美化に対する指導・意識に関しては、教職員の指導状況や生徒の評価は高い数値であり、保護者の評価も例年並みである。昨年度に引き続き、保健部教員や美化委員会を中心に、校内の美化に力を入れたり、救急法講習会や防災訓練など命を守るための意識づけにも力を入れてきた成果だと思われる。ただ、生徒の中に「安全で快適な環境で学校生活を送ることができていない時が多い」と回答した生徒が9名おり、どのような点に不安を抱えているのか、注視する必要がある。 ・生徒が困った時の対応に関しては、教職員・生徒・保護者ともに、昨年よりも数値を上げている。管理職や担任、保健室、相談室が連携し、一人一人の悩みに対応する体制は構築できているが、一方で「適切に対応してもらえない」と回答した生徒が3名おり、こちらも注視する必要がある。</p>	<p>・今後もインフルエンザなどの感染症の流行が続くことが予想されるので、教室の換気や手洗い・うがいなどの対策の徹底を、引き続き積極的に生徒・保護者および教職員に周知していきたい。 ・今年度同様、保健部教員や美化委員会を中心に、全校を挙げて美化活動に取り組むよう、働きかけを続けていきたい。また、救急法講習会や防災訓練等を通して、有事への意識を一層高めていきたい。 ・生徒一人一人の心の悩みについては、相談室や担任および部活動顧問が気を配って対応しており、教員間での連携もとれている。しかし、家庭環境などの様々な問題を抱えた状態で入学してくる生徒や、発達障害等の診断を受けた生徒の数が年々増加している状況から、教職員がじっくりと相談に乗るための環境や時間が不足していることも現実である。こうした問題を解決することが喫緊の課題であると考え。また、相談室を中心に、教職員に対する研修会やケース会議などを実施することによって、生徒と対面する個々の教職員の理解とスキルを向上させことも重要であると考え。</p>
<p>5 読書支援 広報活動</p>	<p>具体的取組 a 読書意欲を啓発し、図書館利用を促進する 目標:①読書意欲の啓発に関する目標指数が80%以上 ②読書に親しむことに関する目標指数が70%以上 b ホームページの充実を図り、保護者や地域への情報発信に努める。学校祭などで保護者等に学校を公開する。 目標:①ホームページの更新、内容に関する指数70%以上</p>	<p>生徒の年間読書量について、「私の読書量」は1年間で「A(5冊以上)B(3~4冊)」と答えた生徒は、昨年度39.3%から本年度34.2%と低下し、目標の70%を下回った。図書委員会の年間を通した活動で図書館利用を促してきたが、読書指導について根本的に見直す必要がある。また、教員による読書意欲の啓発は67.9%と、昨年度から約10%も下がった。教員も多忙で読書指導にまで手が回らないのかもしれない。 保護者の「お子さんは、広い意味での読書(新聞・書籍・電子書籍など)に親しんでいる。どちらかと言えば親しんでいる。」との回答は46.1%と、昨年度とほぼ同じであった。今後も家庭での読書環境サポートも一層行う必要がある。 保護者の「ホームページの内容は充実しているか」に対する「A(そう思う)・B(ややそう思う)」の回答は69.3%と、目標指数の70%をほぼ達成している。引き続き、ホームページによる情報発信に努めたい。</p>	<p>朝読書について、毎学期の学期末考査後の期間に実施したが、各クラスに20冊程度の書籍を配置するなど、読書活動を支援してきた。また、図書委員の活動は毎月様々なイベントを実施したり、放送を使って広報を行ったり多岐にわたっている。また、授業やクラスなどで利用の機会が増え、特に探究活動において図書館を利用する生徒が非常に多かった。生徒の図書館利用が更に促されるように、引き続き読書活動を支援していく。 学校図書館としてどのようなサポートができるか、常にアンテナを高くし蔵書構成を考え、多岐にわたるレファレンスサービスに応じられるよう、運営を続けていく。 ホームページの内容が更に充実するように、こまめに内容を更新し最新の情報を発信していきたい。</p>
<p>6 地域に根ざした学校づくり</p>	<p>具体的取組 a 地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進する。 目標:探究活動に関する目標指数70%以上</p>	<p>生徒が地域のことに興味を持つようになった結果は(A+B)で74.8%となっており、2年連続して約5%ずつ増加している。これは鯖江市および鯖江商工会議所との連携により、探究活動などを通して地域と連携した様々な活動を実施し、それらの活動が定着している結果であると思われる。 しかし、保護者が生徒と地域の話題について話している結果は(A+B)で54.3%となっており、昨年度よりも5.4%増加したものの、地域に興味を持つ生徒の数には届いていない。これは地域についてのことだけではなく、保護者との対話そのものが少ないことも要因の一つと思われる。 一方、教員が授業で地域教材を活用した結果が(A+B)で56.6%で、昨年度よりも9.8%と大幅に増加したが、一昨年は60.0%あり、年ごとに変動が大きく安定していない。これは生徒たちが地域と連携した探究活動の取り組みと関係があり、生徒の活動が活発になると、それにかかわる教員の意識も高まっているものと思われる。</p>	<p>生徒が今後も地域のことに興味を持って活動できるよう、これまで同様に鯖江市および鯖江商工会議所と連携して、生徒たちが活動しやすい環境を整備し、積極的な活動を促すように指導していきたい。 また、身近な大人である保護者と対話することで、社会の課題や仕組みを理解しやすくなるので、家族の意見も取り入れた探究活動ができるように計画をしていきたい。 教員の地域教材の活用を推進していくために、教員研修会等を通して地域のことを理解し、地域独自の活動に興味を持ってもらい、他教科の授業参観などで教科横断も考慮した地域教材の活用を検討していきたい。</p>